

建築BIMの将来像と工程表

令和元年9月
建築BIM推進会議

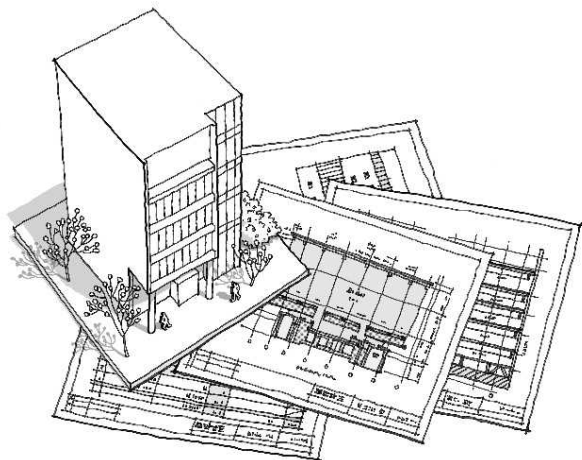
建築BIMとは

BIM (Building Information Modelling) とは・・・

コンピュータ上に作成した主に3次元の形状情報に加え、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等、建物の属性情報を併せ持つ建物情報モデルを構築するシステム。

現在の主流 (CAD)

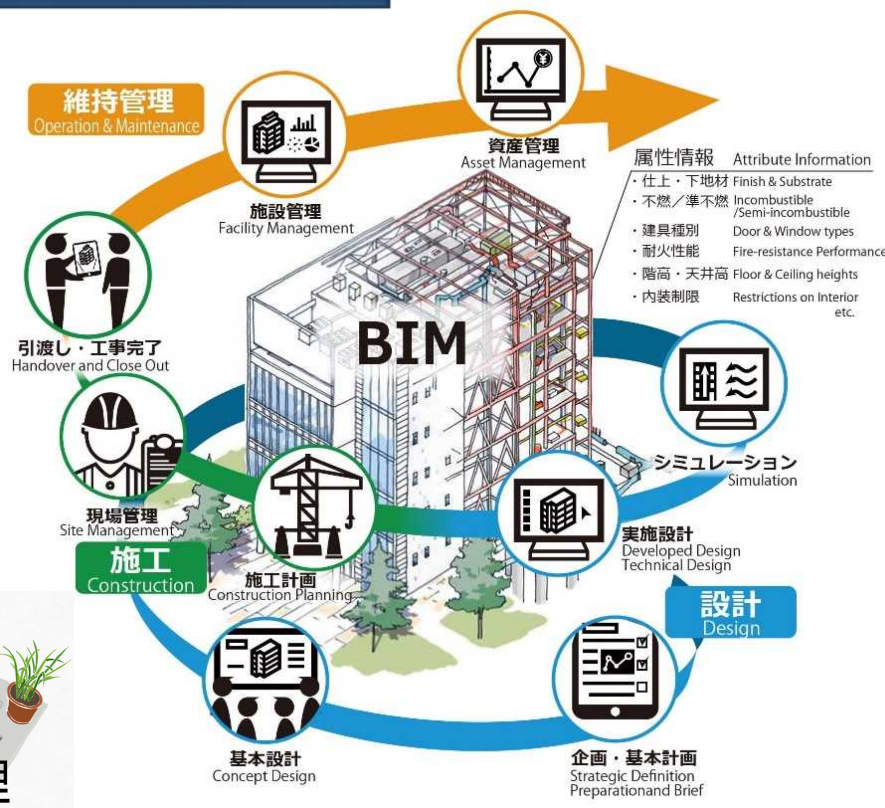
- 図面は別々に作成
- 壁や設備等の属性情報は図面とアナログに連携
- 建設後の設計情報利用が少ない



平面図・立面図・断面図／構造図／設備図

BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス

- 3次元形状で建物をわかりやすく「見える化」し、コミュニケーションや理解度を向上
- 各モデルに属性情報を付加可能
- 建物のライフサイクルを通じた情報利用／IoTとの連携が可能



将来BIMが担うと考えられる役割・機能

Process

- ・ コミュニケーションツールとしての活用、設計プロセス改革等を通じた生産性の向上

Data Base

- ・ 建築物の生産プロセス・維持管理における情報データベース
- ・ ライフサイクルで一貫した利活用

Platform

- ・ IoTやAIとの連携に向けたプラットフォーム

高品質・高精度な
建築生産・維持管理の実現

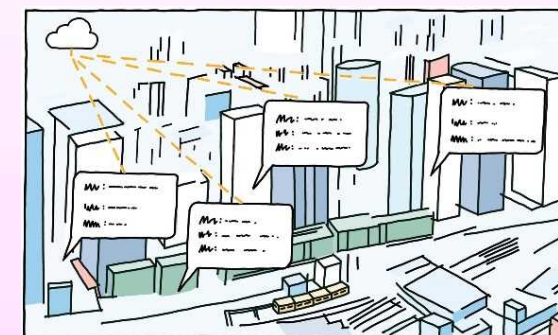
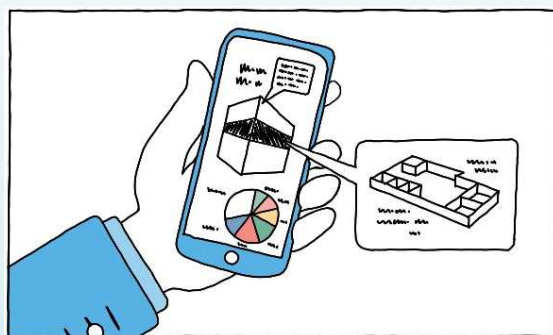
高効率なライフサイクルの実現

社会資産としての
建築物の価値の拡大

いいものが

無駄なく、速く

建物にも、 データにも 価値が



- 3Dモデルの形状と属性情報により空間を確認できることで、建築のプロでない人でもイメージを共有
- 設計・施工時の情報が一元管理されることで、建築生産の効率的な品質管理を実現
- 完成後も活用可能なデータにより、最適な維持管理、資産管理、エネルギー管理を支援

- 投資効果の可視化（コストマネジメント）による迅速な意思決定
- 設計・施工・維持管理段階の円滑な情報の伝達により、無駄のない建物のライフサイクルを実現
- 設計・施工の各工程の作業効率化
- 維持管理の省力化の実現
- 海外との共通・競争基盤としてのBIMの確立

- 適正かつリアルタイムな資産評価・資産管理の実現
- センサー等との連携による建築物へのサービスの拡大
- ビッグデータ・AIの活用による建築物を起点とした新たな産業の創出
- インフラプラットフォームとの融合による最適なリスク管理の実現

建築BIMによる将来像の実現プロセス

高品質・高精度な 建築生産・維持管理の実現

BIMの活用段階



| 実現目標 | 活用段階 | 効果の定性的表現 | | |
|--|-------------------------------|--------------------|--------------------------------|-------------------------------------|
| | | 小 | 中 | 大 |
| 3Dモデルの形状と属性情報により空間を確認できることで、建築のプロでない人でもイメージを共有 | 合意形成・意思決定の円滑化 | モデルを踏まえた意思決定 | 各種シミュレーション、コスト管理等を踏まえた意思決定の円滑化 | |
| | 各種シミュレーション等を通じた最適な計画策定 | シミュレーションへの応用 | 複合的なシミュレーション | AIとの組合せによる複合的なシミュレーション |
| | 工期・工程管理の可視化 | 設計・施工状況の可視化 | 前例に基づく工期予測・工程の提示 | AIによる高度な工期予測 |
| 設計・施工時の情報が一元管理されることで、建築生産の効率的な品質管理を実現 | コスト情報の可視化 | 迅速な概算 | より高精度かつ迅速な積算 | AIによる積算予測 |
| | 意匠・構造・設備・維持管理間の整合性確保 | 各分野における不整合の削減 | 建築生産・維持管理プロセスでの不整合の廃絶 | |
| | 設備・部材のトレーサビリティ向上、ニーズに合った製品の開発 | | メーカー等とBIMの連携 | メーカー等も含めた統一管理 IoTによる自動管理・フィードバック |
| | 各種検査・審査の精度の向上、可視化 | BIM + 2D図面による審査・検査 | BIMによる審査・検査 | AIによる審査・検査支援 |

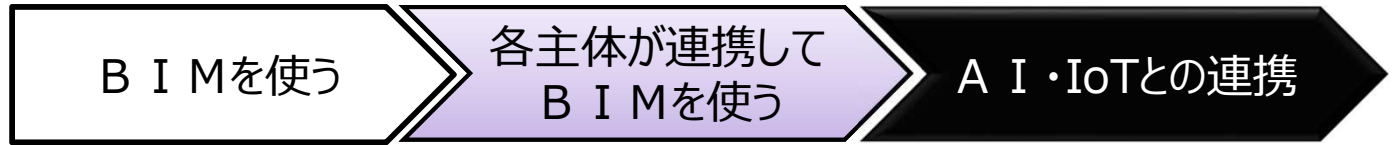
● 先行的取組における現在の到達イメージ


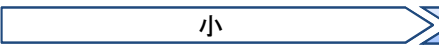


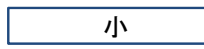


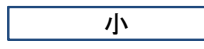
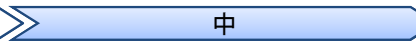

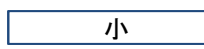


注) 小・中・大はそれぞれの効果を定性的に表現

建築BIMによる将来像の実現プロセス

高品質・高精度な
建築生産・維持管理の実現

BIMの活用段階



| | | | | |
|--|-------------------|--|---|---|
| 完成後も活用可能なデータにより、最適な維持管理、資産管理、エネルギーマネジメントを支援 | 維持管理用図書のペーパーレス化 |  大 維持管理用図書のペーパーレス化の実現 | | |
| | 最適な中・長期修繕計画の策定・運用 |  小 過去のデータに基づく修繕計画 |  中 リアルタイムデータの導入 |  大 AIによる修繕予測 |
| | 資産管理の最適化 |  小 資産情報の一元管理 |  中 資産価値の迅速な把握 |  大 AIによる価値変動予測を通じた資産管理 |
| | セキュリティの高度化 |  小 家具の配置による死角の有無の検討 |  中 歩行認証での歩行可能エリア制御 |  大 テロ等行動予測・警告 |
| | 設備機器と連携した温熱環境の最適化 |  小 温熱環境予測 |  中 実測データに基づく環境の最適化 |  大 各人の最適環境の実現 |

● 先行的取組における現在の到達イメージ








注) 小・中・大はそれぞれの効果を定性的に表現

建築BIMによる将来像の実現プロセス

高効率なライフサイクルの実現

BIMの活用段階



| | | |
|---|--------------------------------|---|
| 投資効果の可視化(コストマネジメント)による迅速な意思決定 | 合意形成・意思決定の円滑化(再掲) |  中: モデルを踏まえた意思決定 大: 各種シミュレーション、コスト管理等を踏まえた意思決定の円滑化 |
| | 各種シミュレーション等を通じた最適な計画策定(再掲) |  小: シミュレーションへの応用 中: 複合的なシミュレーション 大: AIとの組合せによる複合的なシミュレーション |
| | コスト情報の可視化(再掲) |  小: 迅速な概算 中: より高精度かつ迅速な積算 大: AIによる積算予測 |
| | 個別の建築物の資産評価の迅速化・省力化 |  小: 過去データに基づく資産予測 中: 実績データに基づく高度な予測 大: AIによる収益等最適化 |
| 設計・施工・維持管理段階の円滑な情報の伝達により、無駄のない建物のライフサイクルを実現 | 生産時の手戻り削減(分野間の整合確保、干渉チェックの省力化) |  中: 各プロセスにおける不整合の削減 大: 建築生産・維持管理プロセスでの不整合の廃絶 |
| | 部材、設備等製造の最適化 |  小: 需要見込みによる生産調整 中: 需要とコストを合わせた収益増 大: AIによる戦略的製造 |
| | 修繕・改修時の効率化 |  小: 現状把握の省力化 中: 建物情報の把握・管理の省力化 大: AIによる最適な改修計画支援 |

● 先行的取組における現在の到達イメージ

注) 小・中・大はそれぞれの効果を定性的に表現

建築BIMによる将来像の実現プロセス

高効率なライフサイクルの実現

BIMの活用段階



| 業務領域 | 業務内容 | BIM活用段階 | | |
|-----------------|---------------------|-----------------------|-------------------------------|--------------------|
| | | 小 | 中 | 大 |
| 設計・施工の各工程の作業効率化 | 企画・計画策定の効率化 | 各種シミュレーションによる比較検討の省力化 | ライフサイクルコストを踏まえた計画策定 | AIによる最適な計画策定支援 |
| | 設計業務の効率化 | 図面不整合・干渉チェックの省力化 | 情報の一元管理による効率化 プレファブ리케이션の進展 | ニーズに対応するAIによる設計支援 |
| | 施工計画の最適化 | 施工・仮設シミュレーション | 部材搬入・タイミングのシミュレーション | AIによる最適な施工計画策定 |
| | 施工の効率化 | 施工関連図書の整合確保 | 施工支援技術の適用 プレファブ리케이션の進展 | 自動施工（ロボット、3Dプリンタ等） |
| 維持管理の省力化の実現 | 維持管理用図書のペーパーレス化（再掲） | | | 維持管理用図書のペーパーレス化の実現 |
| | 清掃等業務の自動化・省人化 | | 一部、無人清掃 | 完全な自動清掃の実現 |
| | 検査等業務の自動化・省人化 | | 一部、無人検査 | 完全な自動日常検査の実現 |
| | 予防・保全の最適化 | | センサーによる損傷感知 | AIによる予防保全 |

● 先行的取組における現在の到達イメージ

注) 小・中・大はそれぞれの効果を定性的に表現

建築BIMによる将来像の実現プロセス

BIMの活用段階



社会資産としての建築物の価値の拡大

| | | |
|---|-----------------------|---|
| 適正かつリアルタイムな資産評価・資産管理の実現 | 個別の建築物の資産評価の迅速化・省力化 | 小: 資産評価に必要な情報の把握の迅速化 中: リアルタイムな資産評価の実現 大: AIによる資産価値予測 |
| | 資産管理の最適化（再掲） | 小: 資産情報の一元管理 中: 資産価値の迅速な把握 大: AIによる価値変動予測を通じた資産管理 |
| | まちづくりとのシナジー | 小: シミュレーションによる合意形成支援 中: 精緻な予測に基づく合意形成支援 大: AIによる将来予測 |
| センサー等との連携による建築物へのサービスの拡大 | 建築物の利活用情報の商品化 | 中: センサーによる情報蓄積・販売 大: AIによる買い手選びの最適化 |
| | 最先端技術の建築物への適用 | 小: VR・AR等 中: 実績データに基づく建築物の損傷制御 大: AIによる高度防災建築物 |
| | 予防・保全の最適化（再掲） | 中: センサーによる損傷感知 大: AIによる予防保全 |
| ビッグデータ・AIの活用による建築物を起点とした新たな産業の創出 | 建築物の利活用情報の商品化 | 中: 建築物生産・維持管理情報の商品化 大: 建築物の利活用情報の商品化 |
| インフラプラットフォームとの融合による最適なリスク管理の実現 | インフラ情報と建築物の連結 | 中: 建築物内外の人流・物流情報が連携 大: AIによる人流・物流の最適化 |
| | 都市レベルでの精緻なシミュレーションの実現 | ● 先行的取組における現在の到達イメージ 注) 小・中・大はそれぞれの効果を定性的に表現 中: デジタルツイン都市の試行 大: デジタルツイン都市の形成 |

BIMによる将来像を実現するため、建築業界は今後、BIM活用環境の整備に係る取組を、以下の方針に従って進めることとする。

- ① **マーケットの機能を生かしながら、官・民が適切な役割分担の下で協調して進める**
- ② **先行的な取組を進め、その後に一般化を図る
(PDCAサイクルによる精度の向上)**
- ③ **我が国の建築業界の国際競争力の強化を図るため、可能な限り国際標準・基準に沿って進める**

将来像を実現するための建築業界に必要な取組

BIMによる将来像を実現するため、建築業界は今後、BIM活用環境の整備として、以下の取組を進めることとする。（取組は必要に応じて随時追加）

1. BIMを活用した建築生産・維持管理に係るワークフローの整備

Keyword BIM標準ガイドライン（BIMワークフロー）、BEP（BIM実行計画書）、EIR（BIM発注者情報要件）、竣工モデル定義、BIMを活用した場合の契約、業務報酬のあり方、著作権

2. BIMモデルの形状と属性情報の標準化

Keyword オブジェクト標準、属性情報の標準化、オブジェクトライブラリー、メーカーオブジェクトライブラリーと仕様情報の連携

3. BIMを活用した建築確認検査の実施

Keyword BIM2D審査、ビューワー、BIM審査、BIM検査、AI審査・検査

4. BIMによる積算の標準化

Keyword 分類体系の検討、積算手法の標準化、コストマネジメント手法の確立

5. BIMの情報共有基盤の整備

Keyword 国際標準・基準、データ連携手法、データ情報共有基盤、データ真正性確保技術、デジタル証明技術

6. 人材育成、中小事業者の活用促進

Keyword BIMマネージャー、BIM技術者資格、BIM講習・研修

7. ビッグデータ化、インフラプラットフォームとの連携

Keyword データ蓄積、地盤情報、都市モデル

建築BIMの普及・進化

高効率なライフサイクルの実現

無駄なく、速く

- 投資効果の可視化（コストマネジメント）による迅速な意思決定
- 設計・施工・維持管理段階の円滑な情報の伝達により、無駄のない建物のライフサイクルを実現
- 設計、施工の各工程の作業効率化
- 維持管理の省力化の実現
- 海外との共通・競争基盤としてのBIMの確立

高品質・高精度な 建築生産・維持管理の実現

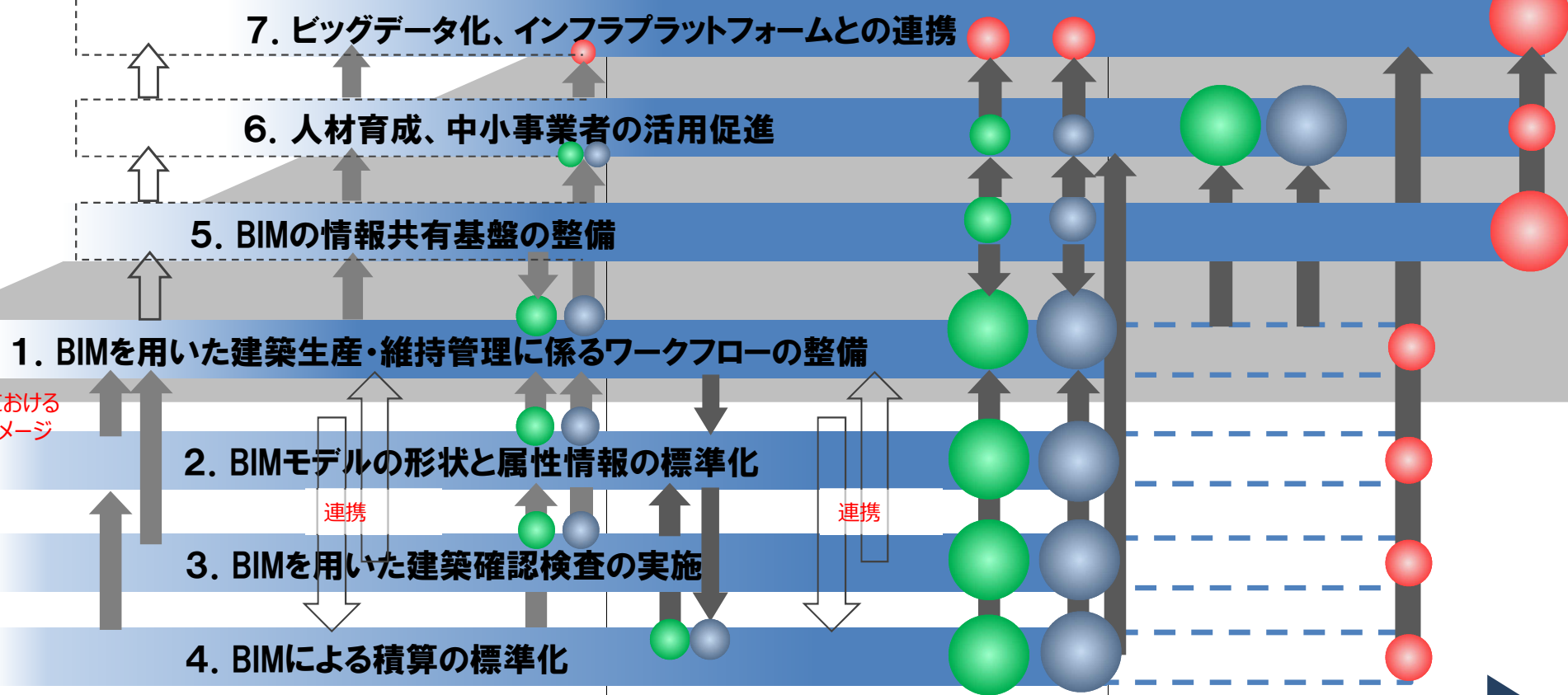
いいものが

- 3Dモデルの形状と属性情報により空間を確認できることで、建築のプロでない人でもイメージを共有
- 設計・建設時の情報が一元管理されることで、建築時の効率的な品質管理を実現
- 完成後も活用可能なデータにより、最適な維持管理、資産管理、エネルギー管理を支援

社会資産としての建築物の価値の拡大

建物にも、 データにも価値が

- 適正かつリアルタイムな資産評価・資産管理の実現
- センサー等との連携による建築物へのサービスの拡大
- ビッグデータ・A I の活用による建築物を起点とした新たな産業の創出
- インフラプラットフォームとの融合による最適ナリリスク管理の実現



先行的取組における現在の到達イメージ

将来像を実現するための取組の流れと効果の発現 (ロードマップ)

1. BIMを活用した建築生産・維持管理に係るワークフローの整備 国土交通省

概要

設計・施工・維持管理・改修のそれぞれの段階で必要となる「BIMモデル・情報の程度<範囲、詳しさ>」を整理し、これに沿って各プロセスの役割・責任分担の明確化を図ることで、建築生産・維持管理プロセスで一貫したBIMの活用を可能とするための環境を整備する。

工程表

| 検討事項 | 概要 | 主な関係委員等※ | 工程表 | | | |
|-----------------------------|--|----------------|-----|-----|-----|----|
| | | | 工程1 | 工程2 | 工程3 | |
| 1-1. BIM標準ガイドライン(BIMワークフロー) | 企画・設計・施工・管理までのワークフローの整備と、各段階で必要となるBIMモデルの形状と属性情報の程度(標準フォーマット)を整理 | 国土交通省 + 関係団体 | 検討 | 試行 | 実装 | |
| 1-2. BIM実行計画書の標準策定(BEP) | 各プロジェクトにおいてBIMを利用するために必要な事前取り決めのひな型を整備 | 国土交通省 + 関係団体 | 検討 | 試行 | 実装 | |
| 1-3. BIM発注者情報要件の標準策定(EIR) | 発注者がプロジェクト情報を作成するための管理上必要な要求水準のひな型を整備 | 国土交通省 + 関係団体 | 検討 | 試行 | 実装 | |
| 1-4. 竣工モデル定義 | 竣工後に維持管理者等に引き継ぐBIMモデル・情報の内容を定義 | 国土交通省 + 関係団体 | 検討 | 試行 | 実装 | |
| 1-5. 部品メーカーとのかわり方の整理 | ワークフローの各段階でBIMデータを活用した部品メーカーとの適切なかわり方を整理 | 国土交通省 + 関係団体 | 検討 | 試行 | 実装 | |
| 1-6. BIMを活用した場合の契約 | 各主体の役割分担に沿った責任を整理し、BIMによる設計、施工に係る標準契約書として整理 | 国土交通省 + 関係団体 | | 検討 | 試行 | 実装 |
| 1-7. 業務報酬のあり方 | BIMを用いた設計・施工等の業務に係る報酬のあり方を整理 | 国土交通省、建築設計関係団体 | | 検討 | 実装 | |
| 1-8. 著作権 | BIMを活用した建築生産・維持管理における著作権の関係を整理 | 国土交通省 + 関係団体 | | 検討 | 試行 | 実装 |

2. BIMモデルの形状と属性情報の標準化、3. BIMを活用した建築確認検査の実施、4. BIMによる積算の標準化

※ 現在取組が進められている内容については、取組を行っている団体を、現在まだ手がつけられていない内容については、主体的に関わると考えられる団体を記載しているもの。

2. BIMモデルの形状と属性情報の標準化

概要

設計・施工・引渡しなどBIMを作成する際のモデル（形状）の作成方法、オブジェクト、属性情報項目、属性情報入力方法を標準化することにより、生産プロセスにおいて一貫してBIMを利活用できる環境を整備する。あわせて、建築材料・構造・設備機器等のメーカーとの連携を進める。

工程表

| 検討事項 | 概要 | 主な関係委員等※ | 工程表 | | |
|---------------------|---|--------------------|-----|-------|-----|
| | | | 工程1 | 工程2 | 工程3 |
| 2-1. オブジェクト標準 | BIMモデルの基本的な作成方法・表示方法を提示 | BLCJ + 関係団体 | 検討 | 試行 | 実装 |
| 2-2. 属性情報の標準化 | BIMに付加する情報項目及び標準的な入力方法を提示 | BLCJ + 関係団体 | 検討 | 試行 | 実装 |
| 2-3. オブジェクトライブラリー | 特定のメーカーによらないジェネリックオブジェクトを作成し、メーカーオブジェクトを含めて公表 | BLCJ + 関係団体 | 試行 | 試行 | 実装 |
| 2-4. メーカーオブジェクト | 設備等メーカーが作成するオブジェクトをライブラリーで利用可能とする | BLCJ + 関係団体 | 検討 | 試行 | 実装 |
| 2-5. ライブラリーと仕様情報の連携 | 情報の一貫した活用を図るため、BIMの持つ情報と施工に係る仕様情報（標準仕様や施工要領を含む）を連携させる | BLCJ + 関係団体 | 検討 | 実践・試行 | 実装 |

4-1. 分類体系の整備

1. BIMを活用した建築生産・維持管理に係るワークフローの整備

3. BIMを活用した建築確認検査の実施

概要

BIM及び属性情報を用いて、より効率的かつ的確な建築確認検査を実施するため、BIMから生成する2D図面を用いる手法の整備を図るとともに、BIM審査・検査及びAI、IoT機器との連携など、より高度な活用を目指し、検討・実践を進める。

工程表

| 検討事項 | 概要 | 主な関係委員等※ | 工程表 | | | | |
|-------------|---|------------------------------------|-----|-----|-----|----|----|
| | | | 工程1 | 工程2 | 工程3 | | |
| 3-1.BIM2D審査 | BIMモデルから2次元図面を作成する手法の整備及びBIM+2次元図面を用いた審査の実施 | 建築確認におけるBIM活用推進協議会（日本建築センター等）+関係団体 | 検討 | 試行 | 実装 | | |
| 3-2.ビューワー | BIMを用いて審査を行うためのビューワーソフトの仕様を規定し、開発を進める | 建築確認におけるBIM活用推進協議会（日本建築センター等）+関係団体 | 検討 | 試行 | 実装 | | |
| 3-3.BIM審査 | BIMモデルを用いて建築確認審査を実施（あわせて関係法令を整備等） | 建築確認におけるBIM活用推進協議会（日本建築センター等）+関係団体 | | 検討 | 試行 | 実装 | |
| 3-4.BIM検査 | 中間検査・完了検査をBIMモデルを用いて実施 | 建築確認におけるBIM活用推進協議会（日本建築センター等）+関係団体 | | 検討 | 試行 | 実装 | |
| 3-5.AI審査・検査 | 建築確認情報のデジタル化手法を検討し、AIを活用したより効率的な建築確認、IoT機器を活用したより効率的な中間検査・完了検査を実施 | 建築確認におけるBIM活用推進協議会（日本建築センター等）+関係団体 | | | 検討 | 試行 | 実装 |

2. BIMモデルの形状と属性情報の標準化

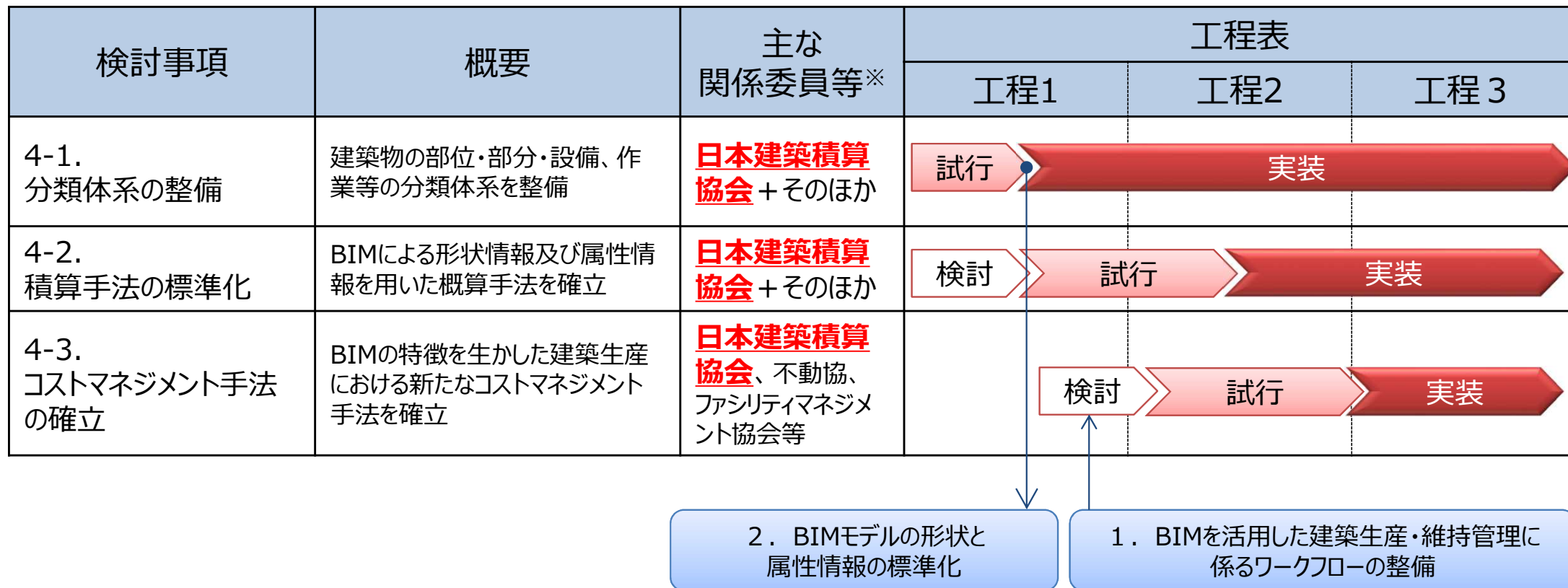
※ 現在取組が進められている内容については、取組を行っている団体を、現在まだ手がつけられていない内容については、主体的に関わると考えられる団体を記載しているもの。

4. BIMによる積算の標準化

概要

BIMによる形状及び属性情報から積算数量を算定可能とするため、建築物の部位・部分・設備等を一元的に管理可能なコード化を整備するとともに、BIMに合わせたオブジェクト単位での積算手法の標準化を図る。

工程表



※ 現在取組が進められている内容については、取組を行っている団体を、現在まだ手がつけられていない内容については、主体的に関わると考えられる団体を記載しているもの。

5. BIMの情報共有基盤の整備

概要

国際標準・基準を踏まえたデータの流通・蓄積手法を確立し、関係主体間のデータ連携の円滑化を図るとともに、長期間経過後でもBIMデータが活用可能となる情報共有環境を整備する。あわせて、データの真正性確保、セキュリティ、デジタル証明などBIMデータそのものの信頼性を確保するための技術を整備する。

工程表

| 検討事項 | 概要 | 主な関係委員等※ | 工程表 | | |
|-------------------|---|-----------------------------------|-----|-----|-----|
| | | | 工程1 | 工程2 | 工程3 |
| 5-1.国際標準・基準への理解促進 | 日本におけるBIMデータの国際標準・基準への対応方針、判りやすい説明等による理解を促進する手法を確立 | bSJ + IIBH + 国総研・建研 + BLCJ | 検討 | 試行 | 実装 |
| 5-2.データ連携手法の確立 | 建築生産プロセスにおいて関係者間で伝達している情報を分析、整理し、データ連携のプロセスと手法を確立 | bSJ + 国総研・建研 + BLCJ | 検討 | 試行 | 実装 |
| 5-3.情報共有環境の整備 | BIMのデータベース、プラットフォーム機能を有効に活用するため、BIMデータを蓄積し情報共有する環境（CDE（Common Data Environment））を整備 | bSJ + 国総研・建研 + BLCJ | 検討 | 試行 | 実装 |
| 5-4.データ真正性確保技術の確立 | BIMデータの信頼性を確保するため、なりすましと改ざんなどを防止する技術を確立 | 国総研・建研 + BLCJ | 検討 | 試行 | 実装 |
| 5-5.デジタル証明技術の確立 | BIMデータ上での承認、確認を行う技術・手法を確立 | 国総研・建研 | 検討 | 試行 | 実装 |

2. BIMモデルの形状と属性情報の標準化

6. 人材育成、中小事業者の活用促進

概要

BIMを活用した建築生産、維持管理を効率化するとともに、中小事業者が円滑に導入可能となるよう、BIMマネージャーや技術的な資格制度、人材育成などを進める。

工程表

| 検討事項 | 概要 | 主な関係委員等※ | 工程表 | | |
|--------------------|---|---------------|-----|-----|-----|
| | | | 工程1 | 工程2 | 工程3 |
| 6-1. BIMマネージャー（仮称） | 建築物の生産プロセス全般において、BIMデータを一元的に管理する「BIMマネージャー（仮称）」資格 | bSJ +a | 検討 | 実装 | |
| 6-2. BIM技術者資格 | BIMデータの作成に係る技術者資格 | 全団体 | 検討 | 実装 | |
| 6-3. BIM講習・研修 | 共通基盤に則ったBIM導入のための講習・研修手法を整備し実施 | 全団体 | 試行 | 実装 | |


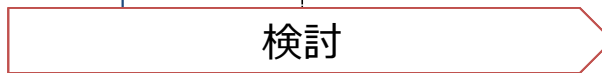
1. BIMを活用した建築生産・維持管理に係るワークフローの整備
2. BIMモデルの形状と属性情報の標準化 など

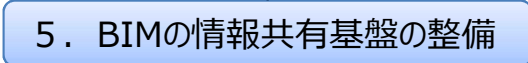
7. ビッグデータ化、インフラプラットフォームとの連携

概要

BIMとAIやIoT機器との連携を図るとともに、BIMデータ自体が社会的資産として活用されるよう情報基盤への応用、データ蓄積等の手法を確立する。

工程表

| 検討事項 | 概要 | 主な関係委員等※ | 工程表 | | |
|-----------------------|--|----------------------|-----|---|-----|
| | | | 工程1 | 工程2 | 工程3 |
| 7-1. ビッグデータとしてのBIMの活用 | コストマネジメント、資産価値の把握などが可能となるよう、部材・製品、プロジェクト単位でのBIMデータを安全にビッグデータ化するための手法について整理 | 国総研・建研 + BLCJ | |  | |
| 7-2. インフラプラットフォームとの連携 | インフラプラットフォームに個別の建築物情報を付加することで、より高度な災害・環境等のシミュレーションへの応用を検証 | 国土交通省 + a | |  | |



※ 現在取組が進められている内容については、取組を行っている団体を、現在まだ手がつけられていない内容については、主体的に関わると考えられる団体を記載しているもの。

| 用語 | 解説 |
|---|---|
| BIM (Building Information Modelling) | コンピュータ上に作成した主に3次元の形状情報に加え、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等、建築物の属性情報を併せ持つ建築物情報モデルを構築するものをいう。 |
| BIMモデル | コンピュータ上に作成した主に3次元の形状情報に加え、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等の建築物の属性情報を併せ持つ建築物情報モデルをいう。 |
| BIMデータ | BIMモデルに加え、BIM上での2Dによる加筆も含めた全体の情報をいう。 |
| 3Dモデル | 縦・横・高さの3次元座標で仮想的に3次元形状を表すモデルをいう。 |
| 2D | CAD等を用いた2次元形状情報を表すものをいう。 |
| BIM実行計画書 (BEP (BIM Execution Plan)) | 特定のプロジェクトにおいてBIMを活用するために必要な設計情報に関する取決め。BIMを活用する目的、目標、実施事項とその優先度、詳細度と各段階の精度、情報共有・管理方法、業務体制、関係者の役割、システム要件等を定め文書化したもの。プロジェクトの関係者間で事前に協議し合意の上、要件書として発行する。 |
| BIM発注者情報要件 (EIR (Employer's Information Requirements)) | 特定のプロジェクトにおいて、発注者として求める、BIMデータの詳細度、プロジェクト過程、運用方法、契約上の役割分担等を示したもの。 |